

しまね OSS (オープン・ソース・ソフトウェア) 協議会 設立趣旨書

- 1、当会は、島根県内における OSS (オープン・ソース・ソフトウェア) に関わる企業、技術者、研究者、そしてユーザが交流することによって、技術開発力の向上を目指し、また OSS の認知度を高めて普及を目指していくことを目的とします。そして、島根県内における OSS を活用した開発力の向上と、成果のオープン化によって地域の企業が競争力を獲得し、全国的な市場創造・拡大につながることを目指します。
- 2、この目的の背景には、IT 産業の中でも付加価値の高い情報サービス産業において Linux に代表されるオープンソース・ソフトウェア (OSS) や、これによる新たなソフトウェアやシステムの開発の地方から全世界的規模に至るまでの流れがあります。そして、松江市でも早くからこの OSS の象徴である Linux を使ったシステム開発を手がけている企業が存在し、また世界的にも有名なプログラム言語 Ruby の開発者も在住し開発を行っていることから、これを一つの地域資源ととらえ、IT と OSS を活用することによって地方における産業の創出・拡大の可能性が存在しています。
- 3、OSS の開発スタイル = 「バザール (市場) 型」のソフトウェア開発方式においてよりコミュニケーションとコラボレーションの作業はより増加し、場合によっては生産性を低下させます。そこで、これを代替するプロジェクトマネジメントのプロセスが必要となっています。一方で、「バザール (市場) 型」のソフトウェア開発方式においては、地域間のネットワーク化、地域の情報サービス産業のコミュニケーションとコラボレーションの可能性がります。プロジェクトマネジメントを公的機関だけでなく、開発コミュニティが補うことが可能であれば、地域の情報サービス産業においても OSS の開発スタイルを活用して IT 技術革新に対応し、OSS の公開スタイルを活用して市場創造・拡大につなげることが可能です。
- 4、そこで当会では、島根県の情報サービス産業がコミュニケーションとコラボレーションを行いながら OSS を核とした開発を行うために、OSS に関わる、技術者、研究者、ユーザが協議会を結成し、また他の地域の同様な OSS 開発コミュニティとネットワークを組み、協力をする体制を築いていくことを目指します。